

ボールパーク新駅早期開業で J R北海道は元気になる!

ボールパークの利便性向上のためには、新駅の設置は欠かせない。早期開業すれば、J R北海道も元気になる。(交通コンサルタント・阿部等)

J R北海道と北広島市は、図1の構造の新駅を85億90億円の全額地元負担(国補助と民間寄付を含む)で新設することに合意した。

J R北海道は2028年夏ごろの開業を目指すという。筆者は、本誌23年4月号に「北広島ボールパーク新駅 工費20億円、2025年に完成!」を寄稿し、連載「北海道の鉄道を活かそう!」第4回では、早い、かつ旨い新駅を開業する具体的な方策を示した。

筆者はJ Rを応援しており、1日も早く便利な新駅を開業し、便利なダイヤを

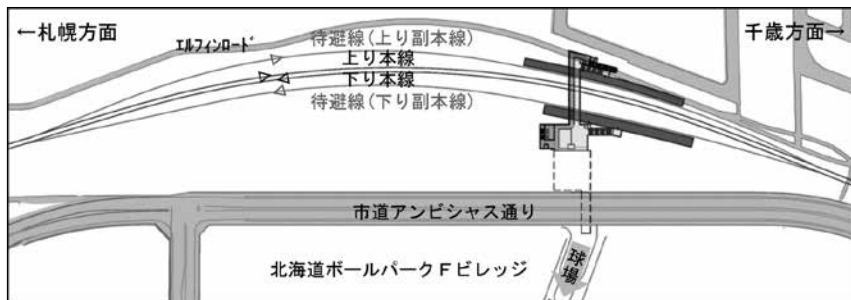
組み、ボールパークを盛り立て、北広島市を活性化し、大きな増収を得て欲しい。開業まで5年近くを要するのはJ Rが最も残念だろう。

本件に関して、鉄道や土木に詳しい多くの方と意見交換を重ねた。誰しも一様に「J Rが5年以上もビジネスクラスを逃がすのはあまりにもつたいない」と話し、現地を見た人は「ホームのみ新設の仮駅なら半年で作れるのでは」と言う。

筆者は野球終了直後の便利なダイヤを構想した上で図2の提案をまとめた。J Rと道庁の用地のみで収まり、建物の取り壊しも必要ない。

ホームのみ新設は仮ではなく完成形だ。札幌駅に回送列車が到着して定員乗車するまでの様子を見ると、

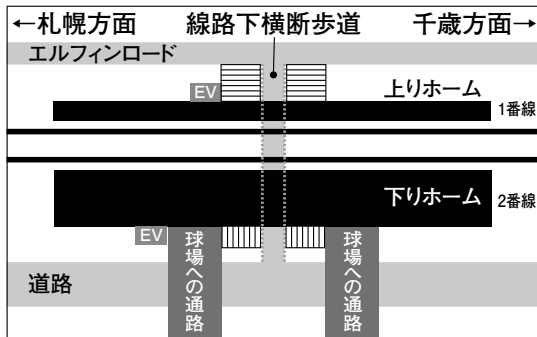
きれいに整列乗車して40秒くらいだ。後続列車がつか



J R北海道の新駅計画 (図1)

えることはなく、本線と別の待避線の新設は必要ない。図1の計画でも、待避線の新設を後回しにし、現行の線路の脇に仮設ホームを作ることで、早期に仮開業してJ Rは稼げるようになる。

北広島市はボールパーク開業前に、3万5000人来場時のJ R利用は1万3500人と想定した。J R利用はその人数で確定したのではなく、便利なダイヤ



阿部氏の新駅提案 (図2)

とすれば2万人以上が利用してもおかしくない。道民は皆、5年後でなく1日も早く新駅が開業し、J Rが堂々と適正な利潤を得て元気になって欲しいと願っているはずだ。

◆ 今回のボールパーク特集に関して、北海道日本ハムファイターズに取材で得た情報について、事実確認を含めて質問状を送付したが、回答はいただけなかった。

財さつJP新原